

科目

現代の国語

教科	国語	学科・学年	全科・1年	単位数	2
教科書	高等学校 現代の国語 (第一学習社)				
副教材	◎現代の国語学習課題集 (第一学習社) ◎カラー版新国語便覧 (数研出版) ◎常用漢字ダブルクリア (尚文出版) ◎担当教員が配布するプリント				

どんな科目？

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指します。

学習の到達目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	「生き物」として生きる	・筆者の提案する人間の生き方について、文章構成をもとに把握し、自分に照らして考えを深める。 ・ものの見方や捉え方について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・表記・表現の基本ルールを理解する。 ・登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、登場人物の決断に与えた影響を読み取るなどして、自分の意見や考えを論述する。		○	
	5	表現編 書き方の基礎レッスン		○		
	6	「本当の自分」幻想			○	
	7	表現編 論理的な表現 羅生門		○		○
2 学期	9	水の東西	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。 ・相手により伝わりやすい表現方法を理解する。 ・場の状況に応じて言葉遣いを選び、使おうとする。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・情報を相手にわかりやすく説明する方法を理解する。		○	
	10	対比 「間」の感覚		○		○
	11	表現編 話し方の工夫 ものとことば			○	
	12	砂に埋もれたル・コルビュジエ 表現編 身近な製品の取り扱い説明書を作成する		○		○
3 学期	1	無彩の色	・論理の展開を粘り強く分析し、今までの学習を生かして筆者の主張をまとめる。 ・必要な情報を探す方法を理解する。 ・情報の信頼性や妥当性の吟味の仕方を理解する。 ・進んで情報の信頼性や妥当性を確かめ、見通しをもって学習する。			○
	2	具体と抽象 日本語は世界をこのように捉える			○	
	3	表現編 情報の探索と選択 情報源の明示		○		○

評価の方法

・評価は次のものを対象とし、3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度）で評価します。

授業態度、発問評価、指名音読、発表・報告、学習課題集の提出、定期考査、リフレクションシート、ポートフォリオ等です。

科目

現代の国語

教科	国語	学科・学年	全科・2年	単位数	2
教科書	高等学校 現代の国語 (第一学習社)				
副教材	◎現代の国語学習課題集 (第一学習社) ◎カラー版新国語便覧 (数研出版) ◎常用漢字ダブルクリア (尚文出版) ◎担当教員が配布するプリント				

どんな科目？

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指します。

学習の到達目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	現代の「世論操作」	・本文全体の内容、段落の相互関係や全体の構成を理解する。 ・敬語の種類や用法について理解する。 ・文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、内容を解釈する。 ・目的に応じて題材を決め、集めた情報の妥当性を粘り強く理解する。		○	
	5	AIは哲学できるか		○		
	6	表現編 待遇表現 「文化」としての科学			○	
	7	表現編 地域の魅力を紹介する 夢十夜		○		○
2 学期	9	フェアな競争	・三種類の「社会的共通資本」の共通点、相違点をまとめる。 ・合意形成の話し合いを任意のテーマで実践し、理解を深める。 ・相手に情報を的確に伝える文章の書き方を理解する。 ・自分の意見をまとめ、説明することを通じて、教材理解を深める。 ・人間と自然が対立する例について具体的に提示する。 ・相手・目的・場面を考慮し、配慮しつつ案内する方法を考える。		○	
	10	表現編 合意形成のための話し合いを行う 実用的な手紙文を作成する		○		○
	11	鏡			○	
	12	不均等な時間 「私作り」とプライバシー 表現編 スピーチで自分を伝える 相手に伝わる案内をする		○		○ ○ ○
3 学期	1	ロビンソンの人間と自然	・筆者の提示した問題について、自分なりに考えを深め、それを他者に共有・説明する。 ・主張と根拠という論理の型と、その内容を理解する。 ・法律の文章における独特の構成表現について理解する。 ・意見文とはどういうものかを理解する。		○	
	2	デザインの本意			○	
	3	法律の改正に関わる資料を読み比べる 表現編 社会に対する意見文を書く		○		

評価の方法

・評価は次のものを対象とし、3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度）で評価します。

授業態度、発問評価、指名音読、発表・報告、学習課題集の提出、定期考査、リフレクションシート、ポートフォリオ等です。

科目

地理総合

教科	地歴	学科・学年	全科・1年	単位数	2
教科書	わたしたちの地理総合 世界から日本へ（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院）				
副教材	世界の諸地域NOW 2025（帝国書院）				

どんな科目？

現代の私たちの生活は、世界と様々な面で関わっており、世界の他の地域に住む人々の存在無しには私たちの日常生活も成り立たなくなっています。そして、世界中の人々とコミュニケーションをとろうとする時、生活・文化や価値観、ものの考え方の違いという「文化の壁」に直面することが多くあります。この科目では、その壁を乗り越えるすべを身につけるために、地域ごとに違いのある自然環境や社会環境について学習し、現在、抱えている様々な地球的課題の解決策も考えていきます。

学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	1章 地図とGISの活用 1節 球面上の世界 1.2 球面上での生活 3 世界地図でとらえる地球 2節 国家の領域と領土問題 1 国家の領域と海洋の役割 2 日本の位置と領土問題	・ 球体としての地球、時差と生活、おもな図法による世界地図、地図の表現を理解する。球面上の正しい方位や時差、図法によって異なる世界地図の特色を理解し、以降の学習の基盤を築くとともに、日常生活で活用する力を身につける。 ・ 国家の3要素や国境のなりたち、領域における海洋の役割、日本と周辺諸国との間の領有権問題について理解する。国境や領土問題が国際関係、人々の生活におよぼす影響を考察する。	○	○	○
	5	3節 国内や国家間の結びつき 1 国家をこえた結びつき 2 観光による結びつき 3 交通・通信による結びつき 4 貿易・物流による結びつき 4節 日常生活のさまざまな地図 1 身の回りにあるさまざまな地図 2 地理情報システムのしくみと使い方	・ 外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国との関係を理解する。国家間の結びつきを地域経済圏や国際連合を通して考察する。観光、交通・通信、貿易・物流の視点から、人や物・資本・サービス、情報の国際的な移動のようすを理解する。さまざまな統計地図や統計資料を分析し、表現する地理的技能を養う。 ・ 身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を習得する。地理情報の電子化について学習し、紙の地形図と電子地形図の違いや用途を理解し、活用する。地球儀ソフトや地理院地図などのGISソフトウェアを利用して地理空間情報を扱い、表現する技能を養う。	○	○	○
	6	2章 生活文化の多様性と国際理解 1節 自然環境と生活文化 1 地球上の地形のなりたち 2.3 山地と平野/海岸部の生活 4 地球上の気候のなりたち 5 暑い気候 アフリカ 6 乾燥した気候 サウジアラビア・モンゴル 7 季節の違い 大陸の西岸と東岸 8 寒冷な気候 シベリア	・ 世界的な視野から地球上の起伏の分布がプレートテクトニクスにもとづくプレート境界と関連していることを捉える。また、河川がつくる地形や海岸部の地形、それらの地形を活かした暮らしの特徴を学習し、写真や地形図によって具体的に読み取り、考察する技能を身につける。 ・ 世界的な視野から大気が循環する仕組みを捉え、日射のほか地形分布や海流などからも影響を受けて気候の地域性が生まれることを理解する。世界の各気候帯の自然環境の特色、人々の暮らしと工夫について、写真や雨温図、分布図などの資料から考察する。	○	○	○

2 学 期	9	2節 産業の発展と生活文化 1 農業の地域性 2 農業 南アジア 3 工業の地域性 4.5 経済成長 中国 6.7 工業化 タイ・ベトナム	・世界の農業・工業・第3次産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その地理的環境や歴史的背景を理解する。また、アジア各地の事例地域の学習を通して、経済活動の国内・国際的な発展と、グローバル化による生活文化の変容を動態的に捉え、主題図や写真などの資料を通して考察する。	○	○	○
	10	3節 言語・宗教と生活文化 1 世界の言語 2 世界の宗教 3 仏教圏の生活文化 4 キリスト教圏の生活文化 5.6 イスラーム圏の生活文化 7 世界の多民族・多文化社会 8 社会の形成 ラテンアメリカ 9 多文化社会 オーストラリア	・世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を考え、その地理的環境や歴史的背景から地域的特色を理解する。また、現代社会における言語・宗教の変容を動態的に捉え、主題図や写真などの資料から考察する。世界の少数民族や少数言語、宗教対立、移民・難民などの現代社会の諸課題を理解し、互いに多様な文化を尊重する多文化共生社会の実現方法について議論し、考察する。	○	○	○
		4節 グローバル化の進展と生活文化 1~3 地域統合 EU 4~6 グローバル化 アメリカ	・EUの統合による産業や生活文化への影響、そして統合によって生じている経済格差や移民問題などの諸課題を理解し、ヨーロッパ各国の国家としての在り方の変容、EUと日本のつながりについて考察する。アメリカ合衆国建国時から多様性を育んできた地理的環境・歴史的背景を理解し、グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉え、アメリカ合衆国の変容、日本とのつながりについて考察する。	○	○	○
	11	3章 地球的課題と国際協力 1節 人口・食料問題 1 世界の人口問題 2 人口増加 中国とインド 3 人口停滞 スウェーデンと日本 4 世界の食料問題 5 人口増加と食料問題 アフリカ	・世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解し、人口ピラミッドや主題図などの資料から問題の所在と解決のための取り組みを考察する。また、人口急増国だけでなく人口停滞国の事例を通して、各国の人口政策や諸問題について比較し、理解を深める。持続可能な発展のために、飢餓や飢饉などの食料問題と人口問題を関連させて理解する。その際、モノカルチャー経済や気候変動などの背景的要因も捉えながら、グローバル・ローカルな視点から解決方法を構想する。	○	○	○
	12	2節 居住・都市問題 1 世界の居住・都市問題 2 大都市 ロンドン・ニューヨーク 3 密集都市 メキシコシティ・ジャカルタ	・都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中によって引き起こされる都市問題についても写真などから判読する。また、途上国と先進国では異なる都市問題が発生していることを理解し、その構造的要因を考察する。都市問題を解決するための都市政策や科学技術の事例に触れながら、解決の方策を構想する。	○	○	○
3 学 期	1	3節 資源・エネルギー問題 1 世界の資源・エネルギー 2 エネルギー資源の生産・消費と課題 3 再生可能なエネルギーへの移行 4 鉱産資源 ロシア・オーストラリア・日本	・エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに資源の偏在性、有限性、そして消費における地域格差などの諸課題を読み取る。エネルギー資源の持続可能な利活用と安定供給を実現するために、化石燃料や再生可能エネルギーのメリットやデメリットを比較し、国際協力の必要性、日本とのつながりについて考察する。	○	○	○
	2	4節 地球環境問題 1 地球温暖化の現状と将来 2 熱帯林の減少 アマゾン・東南アジア 3 砂漠化の進行 アラル海	・地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模でおこっている環境問題の仕組みを構造的に理解する。地球環境を守り持続可能な発展を実現するためには、国際的な協力体制が必要だけでなく、その背後にある政治・経済的な課題解決も求められることを考察する。また、環境問題と自分自身とのつながりを意識し、SDGsの因果関係も捉えながら具体的な取り組みを構想する。	○	○	○
		4章 生活圏の諸課題 1節 自然環境と防災 1 日本の地形・気候と生活 2~4 風水害/火山/地震・津波と防災 5 都市型災害と防災 6 防災・減災への心構え	・日本列島の地形や気候のなりたちと多様性について、主題図やグラフ、写真などの資料から理解する。また、日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することを世界的な視野から捉え、その要因と特徴、災害の地域性、防災や減災への取り組みや課題を考察する。新旧地形図やハザードマップなどを活用し、自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身につける。	○	○	○
	3	2節 持続可能な地域づくり 1 地域調査の実施手順と方法 2~4 地域調査 軽井沢	・生活圏の課題を解決するための手法としての地域調査を実施し、身近な地域の魅力やかかっている課題を見だし、調査を踏まえてその解決策を考察する。地域調査の一連の手順を理解し、景観観察やアンケート・聞き取り調査など、さまざまな調査方法を活用する。調査結果や統計ツール、新旧地形図やデジタル地図、各種資料などによって得られた情報を多角的な視点から主題図やグラフにまとめ、将来に向けた地域のあり方を構想する。	○	○	○

評価の方法

年間5回の定期考査、ノート・学習プリントの提出状況、授業態度などを総合的に判断して評価します。

科目

公共

教科	公民	学科・学年	全科・2年	単位数	2
教科書	高等学校 公共（数研出版）				
副教材	ニュービジョン 公共2025（浜島書店）				

どんな科目？

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する教科です。

学習の到達目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	・ 青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解する。 ・ 古代ギリシアや中国の思想家の思想や三大宗教を理解する。 ・ 古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容を理解する。 ・ 近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容を理解する。 ・ 地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象を理解する。 ・ 法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察する。 ・ 民主政治のあゆみを理解する。 ・ 日本国憲法の三大原理や第9条の内容について理解する。 ・ 日本国憲法で保障されている権利を理解する。	○	○	○
	5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方		○	○	○
	6	第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理				
	7	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理		○	○	○

2 学 期	9	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節日本の政治機構	・日本国憲法に見られる三権相互の関係とそれぞれの役割について理解する。	○	○	○
	10	第2節政治参加と民主政治の課題	・行政機能が拡大している現状を理解する。			
			・選挙のしくみを理解する。			
			・政党の役割を理解する。			
			・地方自治の現状と課題について理解する。			
3 学 期	11	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節経済のしくみと市場機構	・現代の企業の果たしている役割を理解する。	○	○	○
		第2節財政と金融	・市場経済のメカニズムについて理解する。			
			・各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができる。			
	12	第3節日本経済の発展と変化	・戦後日本経済のあゆみを理解する。			
		第4節豊かな生活と福祉の実現	・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解する。			
			・私法・契約の原則やその修正について理解する。			
			・雇用・労働問題や社会保障について理解する。			
	1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節国際政治の動向	・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割について理解する。	○	○	○
			・国際連盟・国際連合の組織と役割を理解する。			
			・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れを理解する。			
	2	第2節国際政治の課題と日本の役割	・国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割を理解する。			
			・核軍拡から核軍縮への流れを理解する。			
			・現代の世界の紛争や人権問題について理解する。			
		第3節国際経済の動向と国際協力	・貿易や外国為替相場について、そのしくみを理解する。			
			・戦後の国際経済の流れを理解する。			
			・地域経済統合が進んでいる世界の現状を理解する。			
			・外務省や国連のホームページなどを参照し、国際社会や各国の課題を考える。			

評価の方法

年間5回の定期考査、ノート・学習プリントの提出状況、授業態度などを総合的に判断して評価します。

科目

歴史総合

教科	地歴	学科・学年	全科・3年	単位数	2
教科書	実教出版 歴史総合				
副教材	帝国書院 歴史総合図説 シンフォニア 四訂版				

どんな科目？

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く総合的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する科目です。

学習の到達目標

社会事象の歴史的な見方、考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の優位な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	歴史の扉 第1編 第1章近代化への胎動	・高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会やヨーロッパの近代市民社会を理解する。	○	○	○
	5	第2章欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・産業革命と交通・通信手段の革新、工業化と世界史上の形成、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	○	○	○
	6	第3章欧米諸国と日本の国民国家形成	・日本の開国、明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向などと関連づけて、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	○	○	○
	7	第4章帝国主義の時代	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	○	○	○
2 学期	9	第2編 第5章第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。	○	○	○
	10	第6章経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解する。	○	○	○
	11	第3編 第7章冷戦と脱植民地化	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理、日本の高度経済成長などを基に、国際政治の変容を理解する。	○	○	○
	12					

3 学 期	1	第8章多極化する世界	・石油危機，アジアの諸地域の経済発展，市場開放と経済の自由化，情報通信技術の発展などを基に，市場経済の変容と課題を理解する。	○	○	○
	2	第9章グローバル化と現代世界	・冷戦の終結，民主化の進展，地域統合の拡大と変容，地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に，冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解させる。	○	○	○

評価の方法

年間5回の定期考査、ノート・学習プリントの提出状況、授業態度などを総合的に判断して評価します。

科目

数 学 I

教 科	数 学	学科・学年	全 科 ・ 1 年	単位数	3
教科書	数学I Standard (東京書籍)				
副教材	WIDE 数学I Standard Buddy 問題・解答編 (東京書籍)				

「数学I」はどんな科目？

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。また、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを学びます。

学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

学習の計画及び評価方法等

学 期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	1 章 数と式	- 公式を用いて、式の展開や因数分解ができる。 - 数を実数まで拡張することの意義を理解できる。 - 不等式の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。	○	○	○
	5	1 節 式の計算		○	○	○
	6	2 節 実数		○	○	○
	7	3 節 1次不等式	- 集合の概念と記号の意味を理解し、適切に使うことができる。 - 論理的に考え、証明ができる。	○	○	○
	7	2 章 集合と論証		○	○	○
2 学期	9	1 節 集合	2次関数のグラフをかくことができ、グラフを利用して、2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 2次関数のグラフと2次方程式の解との関係を理解し、グラフを利用して、2次不等式を解くことができる。	○	○	○
	10	2 節 命題と論証		○	○	○
	11	2 節 命題と論証		○	○	○
	12	3 章 2次関数	- 鋭角の三角比の意味を理解する。 - 鈍角に拡張した三角比の意義を理解し、活用することができる。 - 身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識する。	○	○	○
	1	1 節 2次関数とそのグラフ		○	○	○
	2	2 節 2次方程式と2次不等式		○	○	○
3 学期	1	4 章 図形と計量	三角形の辺と角との関係に三角比を応用できる。	○	○	○
	2	1 節 鋭角の三角比		○	○	○
	3	2 節 三角比の拡張		○	○	○
	3	課題学習	2つの変量の相関をとらえることができる。 - データを分析する方法を用いて、身の回りの事象を考察・検討することができる。 - 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する。	○	○	○
	3	3 節 仮説検定の考え方		○	○	○

評価の方法

評価は次のものを対象とします。

学習意欲や授業態度、学期毎の考査および課題・ノート・プリント等の提出状況、授業での発表や学習への取り組み等です。

評価は、上記内容を総合的に判断します。

科目

科学と人間生活

教科	理科	学科・学年	全学科 1 学年	単位数	2
教科書	科学と人間生活 (東京書籍)				
副教材	ニューサポート 科学と人間生活 (東京書籍)				

どんな科目？

実験や観察を通して、身のまわりに見られる現象や物質などについての理解を深め、科学的に考え、調べる能力と、自然に対する総合的な見方や考え方を身につけることを目標とする科目です。

学習の到達目標

- ・観察や実験を通して、自然科学の基本的原理や法則を理解します。
- ・科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解します。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	1 編 生命の科学 1 章 微生物とその利用 1 ささまざまな微生物 2 私たちの暮らしへの微生物の利用	・身の回りの微生物について理解する。 ・生態系における微生物の役割について理解する。 ・微生物と窒素との関係を知り、肥料の重要性について考える。 ・微生物と環境の浄化を理解し、その利点を考える。 ・微生物やウイルスの発見の歴史を理解する。 ・発酵食品が微生物のはたらきによって作られることを理解する。 ・酵母による発酵の反応について調べ、食品の製造に利用されていることを理解する。 ・抗生物質の発見の歴史を理解する。	○	○	○
	5			○	○	○
	6	2 編 物質の科学 1 章 材料とその再利用 1 リサイクルとは何か 2 金属の性質とその再利用 3 プラスチックの性質とその再利用	・資源の再利用について知り、問題を見出す。 ・金属の性質と構造について理解する。 ・金属の製錬方法と用途について理解する。 ・金属の再生方法の種類と違いについて理解する。 ・プラスチックの性質、種類、構造を知り問題点を見出す。 ・プラスチックの種類について理解する。 ・プラスチックの再生利用の重要性について考える。 ・様々な機能を持つプラスチックについて知り、それらと人間生活とのかわりについて考える。	○	○	○
2 学期	9			○	○	○
	10	3 編 光や熱の科学 1 章 光の性質とその利用 1 光の進み方とその基本的な性質 2 目に見える光と色の見え方 3 見えない光とその利用	・光の進み方について理解する。 ・光の分散とスペクトルについて理解する。 ・光の波長、屈折、回折、干渉について理解する。 ・物体の色がどのように生じているかについて、人の視覚と関連付けて考える。 ・電磁波という広い概念で、可視光線や、赤外線、紫外線、電波、X線などの関係を理解する。 ・可視光線以外の性質とその利用について理解を深める。	○	○	○
3 学期	11			○	○	○
	1	4 編 宇宙や地球の科学 2 章 自然景観と自然災害 1 身近な自然景観の成り立ち 2 目に見える光と色の見え方 3 見えない光とその利用	・地球規模の地形の成り立ちについてプレート運動によってできることを理解する。 ・断層運動によってできた地形について防災のための取り組みの必要性に気づく。 ・マグマの性質と火山、噴火について理解する。 ・山脈や火山は、地球内部の熱が放出される過程でできたことを理解する。 ・地滑り、土砂崩れ、土石流などが風化してもろくなった地表が原因であることを理解する。 ・太陽のエネルギーと地形景観の関係を理解する。 ・自然災害と人間生活について考え、対策を見出す。	○	○	○
	2			○	○	○
	3			○	○	○

評価の方法

- ① 定期考査（中間考査・期末考査）の成績 ② 小テストの成績 ③ 実験レポートの提出
④ 授業ノート、問題集の提出 ⑤ 授業の態度

※1年間の評価は、上記内容を総合的に判断し、決定します。

物理基礎

どんな科目？

学習の到達目標

- ## 学習の計画及び評価方法等

評価の方法

- ※1年間の評価は、上記内容を総合的に判断し、決定します。

科目

化学基礎

教科	理科	学科・学年	金属工学科 ・ 2 年	単位数	2
教科書	新編 化学基礎 (東京書籍)				
副教材	ニューサポート 新編 化学基礎 (東京書籍)				

「化学基礎」はどんな科目？

化学特有の考え方や化学的に探究する方法を学びます。日常生活で利用されている具体的な事例を取り上げて化学の果たす役割を理解します。また、原子、分子、イオンなど物質を構成する粒子や化学結合、化学反応などを扱います。

「化学基礎」の学習の特徴・特色は？

- ・日常生活や社会との関連を図りながら学習を進めます。
- ・観察、実験を通して、化学的に探究する能力と態度を養います
- ・図や写真を多く用いた資料を使うため、複雑な内容も容易に理解できます。

学習の計画

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	1 編 化学と人間生活	・2種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 ・混合物から成分物質を分離する方法は、物質の性質によるものであることを理解する。 ・物質を構成する元素は、約120種類あることを知る。 ・炎色反応の色から、水溶液中に含まれる元素を推測する ・拡散現象が熱運動によることを理解する。 ・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・物理変化と化学変化、状態変化の違いを理解する。	○		
	5	2 章 物質の成分と構成元素		○	○	○
	6	・物質の成分		○	○	
	7	・物質の構成元素		○	○	○
2 学期	9	・物質の三態	・原子の構造	○	○	
	10	・電子配列と周期表		○	○	○
	11	・イオンとイオン結合		○	○	
	12	・化学結合と物質の分類		○	○	○
		・金属と金属結合		○	○	
3 学期	1	・原子量・分子量・式量	・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・分子の性質と溶解性の違いを確認する ・金属の性質について理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 ・物質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。	○	○	○
	2	・物質量		○	○	
	3	・溶液の濃度		○	○	○
		・化学反応式とその量的関係		○	○	
3 学期	1	・酸と塩基	・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・水溶液の酸・塩基性は、水素イオン濃度で表せることを知る。 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・中和の条件は酸から生じるH^+の物質量と塩基から生じるOH^-の物質量が等しくなることだとわかる。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。	○	○	○
	2	・水素イオン濃度とpH・中和反応と塩		○	○	
	3	・中和滴定		○	○	○
		・酸化と還元		○	○	
3 学期		・酸化剤と還元剤	・金属の酸化還元反応」 ・酸化還元反応の応用	○	○	○
		・金属の酸化還元反応」		○	○	
		・酸化還元反応の応用		○	○	

評価の方法

- ① 定期考査（中間考査・期末考査）の成績 ② ホテストの成績
 ③ 実験レポートの提出 ④ 授業ノート、問題集の提出
 ⑤ 授業態度

※1年間の評価は、上記内容を総合的に判断し、決定します。

科目

体育

教科	保健体育	学科・学年	全科・1年	単位数	3
教科書	現代高等保健体育（保体701）				
副教材	現代高等保健体育ノート（保体701）				

どんな科目？

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わい、自分の状況に応じて体力の向上を図り、公正・協力・責任、参画などの意欲を高め、健康・安全を確保して、豊かなスポーツライフをおくる資質や態度を育てる。

学習の到達目標

各種の運動特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1学期	4	体づくり運動	・自分の体に関心を持ち、課題を持って体をほぐしたり、体力を高めたりする。 ・記録の向上をめざし仲間と協力して練習し技能向上の喜びや楽しさを味わう。	○	○	○
	5	陸上競技①～③から1つ選択		○	○	○
	6	①短距離・リレー ②走り幅跳び・ハードル走 ③持久走・投てき				
	7	体育理論		○	○	○
2学期	9	球技選択	・相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。 ・自己の能力に適した課題を持って運動し、よりよくできるように技能を高める。 ・（武道）相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、得意技を用いた攻防ができるようにする。	○	○	○
	10	ソフトボール、サッカー、ソフトテニスのうち1種目選択		○	○	○
	11	体育Ⅱ選択（柔道・剣道・バレーボール）		○	○	○
	12	球技選択				
3学期	1	ソフトボール、サッカー、ソフトテニス、ハンドボールのうち3種目実施、1種目選択	・チームの課題や自己の能力に適した課題を持って運動する。 ・作戦を生かした攻防を展開し、協力して試合を行う。	○	○	○
	2	卓球、バドミントン、バスケットボールのうち1種目選択				
	3	体育理論		○	○	○

評価の方法

知識・技能：各種目において記録測定や技能の習熟度を測るテストや練習・試合を通じて評価する。
 思考・判断・表現：各種目の課題に応じた合理的・計画的な解決に向けて思考し判断する取り組み方や自己や仲間が考えたことを他者に伝える取り組みを評価する。
 主体的に学習に取り組む態度：各種目へ取り組む意欲や、他者と協調し活動する姿を評価する。

科目

体育

教科	保健体育	学科・学年	全科・2年	単位数	2
教科書	現代高等保健体育（保体701）				
副教材	現代高等保健体育ノート（保体701）				

どんな科目？

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

学習の到達目標

生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	体づくり運動	・自分の体に関心を持ち、課題を持って体をほぐしたり、体力を高めたりする。 ・記録の向上をめざし仲間と協力して練習し、技能向上の喜びや楽しさを味わう。	○	○	○
	5	陸上競技の種目選択 (短距離走・リレー)		○	○	○
	6	(走り幅跳び・ハードル走)				
	7	(持久走・投てき)のうちから 1種目選択 体育理論		○	○	○
2 学期	9	球技選択	・相手の動きに対応した攻防を展開して、練習や試合ができるようにする。	○	○	○
	10	ソフトボール、ソフトテニス、サッカーのうちから1種目選択		○	○	○
	11	球技選択	・自己の能力に適した課題を持って運動し、よりよくできるように技能を高める。			
	12	ソフトボール、バレーボール、サッカー、ハンドボール、ソフトテニス のうちから3種目実施、1種目選択 体育理論		○	○	○
3 学期	1	球技選択	・チームの課題や自己の能力に適した課題を持って運動する。 ・作戦を生かした攻防を展開し、協力して試合を行う。	○	○	○
	2	卓球、バドミントン、バスケットボールのうちから1種目選択				
	3	体育理論		○	○	○

評価の方法

知識・技能：各種目において記録測定や技能の習熟度を測るテストや練習・試合を通じて評価する。
 思考・判断・表現：各種目の課題に応じた合理的・計画的な解決に向けて思考し判断する取り組み方や自己や仲間が考えたことを他者に伝える取り組みを評価する。
 主体的に学習に取り組む態度：各種目へ取り組む意欲や、他者と協調し活動する姿を評価する。

科目

体育

教科	保健体育	学科・学年	全科・3年	単位数	2
教科書	現代高等保健体育（保体701）				
副教材	現代高等保健体育ノート（保体701）				

どんな科目？

豊かなスポーツライフを継続していくためには、運動の技能を高めていくことのみならず、体力や技能の程度、性別や障がいの有無、目的等の違いを超えて、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践する資質・能力を育成する。

学習の到達目標

生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	体づくり運動	- 自分の体に関心を持ち、課題を持って体をほぐしたり、体力を高めたりする。 - 記録の向上をめざし仲間と協力して練習し、技能向上の喜びや楽しさを味わう。	○	○	○
	5	陸上競技の種目選択		○	○	○
	6	（短距離走・リレー）				
	7	（走り幅跳び・ハードル走） （持久走・投てき）のうち 1種目を選択 体育理論		○	○	○
2 学期	9	球技選択	- チームの現状や自己の能力に適した課題を持って運動する。 - 作戦を生かした攻防を展開し、協力して試合を行う。	○	○	○
	10	サッカー、ソフトテニス、 ソフトボールのうち1種目選択		○	○	○
	11	球技選択				
	12	サッカー、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、ハンドボール、ソフトテニスのうち3種目実施、1種目選択 体育理論		○	○	○
3 学期	1	球技選択	- チームの課題や自己の能力に適した課題を持って運動する。 - 作戦を生かした攻防を展開し、協力して試合を行う。	○	○	○
	2	バドミントン、卓球、バスケット				
	3	ボールのうち1種目選択				

評価の方法

知識・技能：各種目において記録測定や技能の習熟度を測るテストや練習・試合を通じて評価する。
 思考・判断・表現：各種目の課題に応じた合理的・計画的な解決に向けて思考し判断する取り組み方や自己や仲間が考えたことを他者に伝える取り組みを評価する。
 主体的に学習に取り組む態度：各種目へ取り組む意欲や、他者と協調し活動する姿を評価する。

科目

保健

教 科	保健体育	学科・学年	全科・1年	単位数	1
教科書	現代高等保健体育（保体701）				
副教材	現代高等保健体育ノート（保体701）				

どんな科目？

生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の基礎を培うため、健康の大切さを認識し、健康なライフスタイルを確立する観点に立って、生活習慣病、がんの予防と回復、薬物乱用、心の健康問題、事故等について対応する力を備える学習です。

学習の到達目標

健康問題の変化や健康の成り立ちと健康を保持増進する方法、生活習慣病、特にがんについて、精神疾患や感染症、事故や応急手当等について理解する。

学習の計画及び評価方法等

学 期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学 期	4	健康の考え方と成り立ち	健康の考え方、要因について、健康水準の変化、健康問題について説明できる。生活習慣病やがんの種類と要因、一次予防と二次予防、及び治療や検診などの社会サービスについて説明ができる。健康と運動・食事・休養・睡眠の関係について説明ができる。			○
		私たちの健康のすがた				○
	5	生活習慣病の予防と回復		○		
	6	がんの原因と予防			○	
	7	がんの治療と回復			○	
2 学 期		運動と健康	喫煙・飲酒・薬物による心身の健康への影響や、社会への影響を説明ができる。薬物乱用の心身や社会への影響を説明ができる。精神疾患の要因、症状、治療について説明ができる。感染症・性感染症について説明できる。意思決定・行動選択に影響を与える要因、社会環境について説明ができる。	○		
		食事と健康		○		
		休養・睡眠と健康		○		
	9	喫煙と健康 飲酒と健康				○
		薬物乱用と健康				○
3 学 期	10	精神疾患の特徴	事故と被害の実態について、安全のために必要な環境整備、交通事故防止について説明できる。応急手当の意義を説明できる。応急手当や心肺蘇生法の方法や手順について説明ができる。		○	
		精神疾患の予防			○	
		精神疾患からの回復			○	
	11	現代の感染症 感染症の予防		○		
		性感染症・エイズとその予防		○		
4 学 期	12	健康に関する意思決定・行動選択	健康と被害の実態について、安全のために必要な環境整備、交通事故防止について説明できる。応急手当の意義を説明できる。応急手当や心肺蘇生法の方法や手順について説明ができる。			○
		健康に関する環境づくり				○
	1	事故の現状と発生要因			○	
		安全な社会の形成			○	
	2	交通における安全			○	
5 学 期		応急手当の意義とその基本		○		
	3	日常的な応急手当		○		
		心肺蘇生法		○		

評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度を、定期考査、授業の取り組み姿勢、プリントや保健体育ノート等の提出物で総合的に評価を行う。

科目

保健

教科	保健体育	学科・学年	全科・2年	単位数	1
教科書	現代高等保健体育 改訂版（保体701）				
副教材	現代高等保健体育ノート改訂版（保体701）				

どんな科目？

健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

学習の到達目標

生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1学期	4	ライフステージと健康	・ライフステージと健康の関連について。 ・思春期における体の変化や問題について、性意識の差と性情報が性行動に与える影響について説明できる。 ・妊娠・出産期の健康課題と保健サービスについて説明できる。 ・家族計画の意義と適切な避妊法について、人工妊娠中絶の影響について。 ・加齢にともなう心身の変化について。 ・働くことの意義と健康問題、労働災害、職場の取り組み、余暇について。	○ ○ ○	○ ○	○ ○
	5	思春期と健康				
	6	性意識と性行動の選択				
	7	妊娠・出産と健康				
2学期	9	避妊法と人工妊娠中絶	・環境汚染の原因と健康への影響、防ぐ方法、産業廃棄物の処理、ごみの現状や課題、上下水道のしくみと健康にかかわる課題について説明ができる。 ・食品の安全性と健康へのかかわり。 ・我が国の保健・医療制度や機関について知り、適切に活用することが重要であることを理解する。	○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	10	結婚生活と健康				
	11	中高年期と健康				
	12	働くことと健康				
3学期	1	労働災害と健康	・医薬品の安全性と正しい使用法について。 ・国際機関・民間機関などの保健活動、行政機関による社会的対策について。 ・健康の保持増進のための環境づくりについて。	○ ○ ○	○	○
	2	健康的な職業生活				
	3					

評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度を、定期考査、授業の取り組み姿勢、プリントや保健体育ノート等の提出物で総合的に評価を行う。

科目

音楽Ⅰ

教科	芸術	学科・学年	機械工学、電子機械工学、金属工学、電気工学、建築工学(選択)、土木工学(選択)・1年	単位数	2
教科書	高校生の音楽1 (教育芸術社)				
副教材	改訂 音楽通論 (教芸)				

どんな科目？

音楽はリズムや音程、テンポ、ハーモニーなどいろいろな要素から成り立っています。「音楽Ⅰ」では幅広い分野の音楽を聴いたり演奏したりして、それぞれの魅力を自分の言葉で伝えることができるようにします。実技に関しては、楽譜から作曲者や作詞者の思いを読み取り、演奏で表現できるようにします。

学習の到達目標

- ・毎時間、楽曲に関するプリントを配布します。そのプリントを用いて、音楽の魅力を探り、曲に対する理解を深めます。
- ・幅広いジャンルの音楽を演奏・鑑賞します。この活動を通して、時代や地域による表現の違いを感じ取り、それぞれの魅力を人に伝えられるようにします。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	〈歌唱〉	・腹式呼吸など歌唱の基本を身に付ける。	○		○
	5	・校歌	・曲想や歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージを持って歌う。		○	○
	6	・魔法みたいに	・様々なリズムを知覚し、体を使って表現する。	○		○
	7	・野ばら その他 クラッキングカルテット 〈楽典〉音楽基礎理論	・音名や音符の長さを理解し、読譜能力を養う。	○		
2 学期	9	〈器楽〉ギターの演奏	・ギターの基本的な奏法を習得し、基本的なコードを演奏できるようになる。	○		○
		・チェリー	・楽器の音色や奏法の特長を生かし、表現を工夫して演奏する。	○	○	
	11	〈器楽〉打楽器と歌のアンサンブル	・様々な打楽器を使ってサンバのリズムに親しむ。		○	○
	12	・風になりたい 〈鑑賞〉西洋音楽史 ・古典派ロマン派の音楽	・様々な形式について理解するとともに、それが生み出す雰囲気を感じ取る。	○	○	
3 学期	1	〈日本の音楽〉〈民族音楽〉	・日本と西洋の弦楽器の撥弦の違いを認識する。	○	○	○
		・日本の弦楽器と世界の弦楽器	・我が国や郷土の伝統音楽の特徴を理解する。	○	○	
	2	・雅楽・能・歌舞伎	・管楽器の種類を知り、それぞれの楽器の仕組みを理解する。	○		○
	3	・様々な管楽器 〈創作〉 ・作曲	・音階を選び、イメージを持って旋律を作る。	○	○	○

評価の方法

- ・授業中に配布するワークシートを毎回点検、評価。
- ・音楽基礎理論や曲に関する理解度を知るため、筆記試験を実施し、評価する。
- ・学期末に歌唱の実技試験を実施し、評価する。

科目

美術 I

教科	芸術	学科・学年	建築工学科・土木工学科 (選択) ・ 1 年	単位数	2
教科書	高校生の美術 1 (日本文教出版)				
副教材					

どんな科目？

幅広い創作活動を通して、多様な表現方法を身に付けます。
美術作品の鑑賞を通して、そのよさや美しさを味わい、美術の素養を身に付けます。

学習の到達目標

創作活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を養うことができます。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	鑑賞	教科書の作品を味わい、理解することができる。	○	○	
	5	絵画「静物デッサン」	立方体や瓶を鉛筆で正確に、描写することができる。	○	○	○
	6	絵画「静物画」	キャンバスに描くことにより独自の表現を追求することができる。	○	○	○
	7					
2 学期	9	デザイン「表紙デザイン」	目的に応じたテーマを表現できる。 テーマにもとづき的確な構成ができる。	○	○	○
	10					
	11	デザイン「色彩について」	色の持つ特性を理解できる。	○	○	
	12					
3 学期	1	立体造形	平面と立体のとらえ方の違いを理解することができる。	○	○	○
	2		テーマを意識して構成を練り上げ計画的に作業をすすめて制作することができる。			
	3		作品が一番美しく見える場所と角度を選び、作品撮影をすることで形の見え方や表現を理解する	○	○	○
		空間演出写真				

評価の方法

作品、授業態度（関心、意欲等）、プリント等で総合的に評価します。

科目

英語コミュニケーション I

教科	外国語	学科・学年	全学科・1年	単位数	2
教科書	COMET English Communication I (数研出版)				
副教材	COMET ベーシックノート (数研出版) COMET 基本文法 定着ドリル (数研出版) データベース3300 基本英単語・熟語 (桐原書店) データベース3300 書き込み式定着ノートA (桐原書店)				

どんな科目？

聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことの五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域を総合的に育成する科目です。

学習の到達目標

聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと、それぞれの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解して、適切に表現し、伝えることができる。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	Get Ready L1 What did you do in Japan?	・英語で自己紹介をする ・思い出に残っている経験を英語で述べる	○	○	○
	5	L2 When do you feel happy?	・自分の好きなことについて英語で述べる	○		○
	6	L3 Onigiri goes overseas	・日本の文化を英語で紹介する		○	○
	7	L4 Pictograms	・身の回りにあるピクトグラムを英語で紹介する		○	○
2 学期	9	L5 Morita Yuko Reading 1 Activity②	・興味のある職業について英語で述べる ・英語のなぞなぞに挑戦 ・クラスTシャツのフレーズを考える	○		○
	10	L6 Convenience Stores	・自分の好きな店やよく行く店を英語で紹介する	○	○	
	11	L7 High School Aquarium	・自分たちの学校を英語で紹介する	○	○	○
	12	L8 Smart Farming	・生活を快適にするテクノロジーについて英語で述べる	○	○	
3 学期	1	L9 Food Waste	・食品廃棄を減らす取り組みについて英語で述べる	○	○	
	2	L10 William and his windmill	・地域のために自分なら何ができるか英語で述べる	○		○
	3	Activity 4	・自分が好きな人・ものについてまとまりのある文章を書く	○		○
		Reading 02	・日本初のファシリティドッグについて理解する	○	○	

評価の方法

①学期ごとの定期 (中間・期末) 考査 (3学期は期末のみ)

②単語テスト、春・夏・冬休み明けの課題テスト

③提出物 (ワーク・ノート等)

④パフォーマンステスト (スピーチ等)

①～④に加えて、授業中の意欲、態度等を総合的に判断し、評価します

科目

家庭基礎

教科	家庭	学科・学年	全科・1年	単位数	2
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (2 東書 家基 701)				
副教材	2025最新 生活ハンドブック 資料&成分表&ICT				

どんな科目？

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指します。

学習の到達目標

人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎知識と技能を身につける。また、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だし、課題を設定し解決する力を養う。さらに、様々な人々と協働し、自分や家庭、地域の生活の充実と向上を図る実践的態度を養う。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	家庭科ガイダンス ホームプロジェクトと学校家庭 クラブ活動	・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と 実施方法について理解する。		○	
	5	第1章生涯を見通す 第2章人生をつくる	・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解し、歩 みたい人生の目標を描く。		○	○
	6	第7章衣生活をつくる	・家庭や地域のよりよい生活を創造できるよう、仕事と 家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきを理解する。	○		
	7	ホームプロジェクト（実践）	・被服材料や性能を知り、被服管理を理解し工夫できる。 ・自己の生活上の課題を設定し解決方法や計画を立て、 実践する。	○	○	○
2 学期	9	ホームプロジェクト（発表） 第3章子どもと共に育つ	・生活課題を解決する手立てについて理解を深める。 ・子どもの心身の発達を理解し、適切に関われる態度を 身につけ、子どもの生活環境や衣食住を考えられる。	○		○
	10	第4章超高齢社会を共に生きる	・加齢に伴う心身の変化、高齢期を支える社会の仕組み や課題を理解し、適切な支援方法や関わり方を考える。		○	
	11	第5章共に生き、共に支える 第6章食生活をつくる	・支え合う社会の構造や多様性を理解し、個人や地域の 役割を考える。	○		
	12		・栄養の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性を理解 し、ライフステージに応じた食生活を計画・管理できる。	○		○
3 学期	1	第8章住生活をつくる	・住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・消費生活の意思決定の重要性と情報の活用について理 解する。	○		
	2	第9章経済生活を営む	・多様化する販売方法や支払い方法の仕組みを知り、契 約の重要性を理解する。	○		
	3	第10章持続可能な生活を営む 第11章これからの生活を創造 する	・持続可能な消費や生活を理解し、ライフスタイルを工 夫する。 ・各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理につ いて振り返りながら生活設計ができるようになる。		○	○

評価の方法

学習意欲、授業態度、学期毎の考査や課題などの提出状況、実験・実習などのとりくみや作品のできばえ

教科	工業	学科・学年	機械工学科1年	単位数	3
教科書	新版 工業技術基礎（実教出版）、 新版 機械実習1（実教出版）、新版 機械実習2（実教出版）				
副教材	各実習項目ごとの自作テキスト				

どんな科目？

工業の各分野に共通して必要である基礎的な態度、技能、知識などを実験・実習を通して、体験的に学習する教科です。

学習の到達目標

4班に分かれて、「手仕上げ」「マイコン」「旋盤」「計測」の実習を行います。作品の製作などものづくりを実際に体験して、工業に関する基礎的な技術や知識を身につけてもらいます。

学習の計画及び

	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点																											
				知	思	主																									
1 学期	4	・オリエンテーション ・各項目を、1～4班に分かれ、ローテーションで実施	・各科目への興味や関心を高め、工業に関する幅広い分野の基礎的な技術や知識を身に付け、安全作業を行うことができる。 「マイコン」 ・プログラム制御を理解し、自作のLED点灯ボードを製作することができる。 「計測」 ・ノギス等の測定機器を正しく使用することができる。 ・金属材料の基本的な性質を理解することができる。 ・電子回路の基本的な性質を理解し、測定機器を正しく使用することができる。 「旋盤」 ・段付き丸棒の製作を通して、旋盤の基本操作を理解し、安全に作業ができる。 「手仕上げ」 ・文鎮の製作を通して、手工具を使用したねじ立てや面取りなどの加工ができる。	○	○																										
	5																														
	6				○	○	○																								
	7																														
2 学期	9	<table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th colspan="4">班</th></tr></thead><tbody><tr><td>旋盤</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>計測</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>1</td></tr><tr><td>仕上げ</td><td>3</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>マイコン</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr></tbody></table>	項目	班				旋盤	1	2	3	4	計測	2	3	4	1	仕上げ	3	4	1	2	マイコン	4	1	2	3	・実習内容の確認テスト	○	○	○
	項目		班																												
	旋盤		1	2	3	4																									
	計測		2	3	4	1																									
仕上げ	3		4	1	2																										
マイコン	4	1	2	3																											
10		○	○																												
11		○	○																												
12		○	○	○																											
学 期	1			○	○	○																									
	2			○	○	○																									
	3																														

評価の方法

製作物の完成度や実習レポートの内容・提出期限などを基本とし、実習に取り組む意欲や姿勢、班員との協調性などを考慮して評価します。
1学期、2学期は項目ごとに評価し、学年末はすべての項目を総合的に判断し、確認テストの点数を加味します。

教科	工業	学科・学年	機械工学科3年	単位数	3
教科書					
副教材	担当教員の配布物及び一般図書とホームページ				

どんな科目？

1班6～7名で6班編成とし、各グループがテーマを選定し、研究・製作・実験等を行い、関連する知識・スキルを習得するとともに、工業に関する幅広い視野を育成し、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる科目です。

学習の到達目標

この科目は、「工業技術基礎」と並んで、工業に関する各学科のすべての生徒が履修することと定められています。これまでに学習した加工に関する基礎・基本的技術を応用発展させ、一人一人が各テーマに沿って独創的な発想を加え、研究・製作・実験を進めます。これにより工業に関する幅広い知識と技能の習得を図ります。

学習の計画及び

	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1学期	4 5 6 7	テーマ設定 班分け 研究・製作・実験	＜計画段階＞ ・課題内容を考える。 ・課題の進め方、内容の各自で考える。 ・処理時間・必要経費を検討し、グループ内での役割分担を決定する。	○	○	○
2学期	9 10 11 12	試行錯誤 調査検討 解決活動 計画の点検	＜実施段階＞ ・参考文献、資料の調べ方等を学習する。 ・課題の進め方、活動、進行の修正方法を身につける。 ・問題解決力を習得する。	○	○	○
3学期	1 2 3	発表方法と資料作成 発表会 レポート提出	＜課題研究発表会＞ ・プレゼンテーション力を習得する。 ・発表資料の作成し、在校生の前で研究発表会を実施する。	○	○	○

評価の方法

評価は次のものを対象とします。
授業態度・関心・意欲・技能・作品のできばえ・レポート
1年間の評価は、上記内容を総合的に判断し、班ごとで行います。また、学年末の評価は、全てのパートについて総合的に判断します。

科目

工業情報数理

富山県立富山工業高等学校

教科	工業	学科・学年	機械工学科1年	単位数	2
教科書	工業情報数理（実教出版）				
副教材	情報技術検定問題集2・3級 C言語 新訂版（実教出版）				

どんな科目？

現代の高度情報化社会に対応するために、情報技術に関する基礎的な知識や、情報活用能力を身につける科目です。

学習の到達目標

一学期は、情報化社会におけるモラルや管理、またコンピュータの働きや仕組みについて学びます。二学期は、C言語を使用し、分岐処理や繰り返し処理などの簡単なプログラムを作成します。三学期は、ネットワークやマルチメディアなど生活に深く関わる情報技術について学びます。また、情報室を利用して、コンピュータの基本操作も学びます。

学習の計画及び

	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学 期	4	第1章 産業社会と情報技術 ・情報化社会のモラルと管理	・情報化社会に必要なモラルを身に付ける。 ・コンピュータが2進数で動作していることを理解し、日常使用している10進数との相互変換ができる。 ・論理回路の基礎を学び、コンピュータの内部の仕組みを理解できる。	○		
	5	第4章 ハードウェア ・データの表し方		○	○	
	6	・論理回路の基礎		○	○	
	7	・処理装置の構成と動作 ・周辺装置				
2 学 期	9	第3章 プログラミング ・プログラムの作り方	・分岐処理や繰り返し処理など、基本的なプログラムを理解し、流れ図を作成できる。 ・C言語を使用し、簡単なプログラムを作成できる。	○	○	○
	10	・流れ図とアルゴリズム		○	○	○
	11	・プログラムの基礎				
	12	・分岐処理 ・繰り返し処理				
3 学 期	1	第5章 データ通信・マルチメディア・コンピュータ制御 ・データ通信とネットワーク	・インターネットやLANなど、コンピュータネットワークの仕組みや違いを判別できる。 ・文字情報・画像情報を活用することができる。 ・キーボード、マウスなどの基本操作ができる。	○	○	
	2	・マルチメディアの活用		○	○	○
	3	第2章 コンピュータの基本操作とソフトウェアの基礎		○		○

評価の方法

1・2学期は、中間考査と期末考査をもとに、提出物の期限や授業への取り組みを考慮して評価を行います。
学年末の評価は、1・2・3学期の各考査の点数と、上記の内容を考慮して、総合的に判断して評価を行います。

科目

工業技術基礎

教科	工業	学科・学年	電子機械工学科・1年	単位数	3
教科書	工業技術基礎（実教出版）				
副教材	自作テキスト				

どんな科目？

工業に関する基礎的技術を実習によって学習し、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割について理解し、工業に関する広い視野を養い、意欲的な態度を身に付けるための科目です。

学習の到達目標

工業の各分野に共通に必要なである基礎的な知識、技術、態度を実験・実習を通して習得する意義を理解する。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4 5 6	下記の実習項目を、4班編成で、ローテーション（1項目4週）で実施する。				
	7	1 電子回路	・電子部品の基礎知識を身に付け、ミニマイコンカーを製作する。	○	○	○
2 学期	9					
	10	2 機械工作	・測定器具を正確に取り扱うことができる。旋盤作業の基礎を身に付ける。	○	○	○
	11					
	12	3 デジキャス	・デジタル機器を用いて製作した鋳型を用いて錫の鋳造を行う。	○	○	○
3 学期		4 情報処理Ⅰ	・Cプログラム（算術演算、分岐処理、繰り返し処理、配列）の作成。	○	○	○
	1					
	2 3					

評価の方法

実習への取り組み方

報告書（レポート）

科目

課題研究

教科	工業	学科・学年	電子機械工学科・3年	単位数	3
教科書					
副教材	担当教員の配布物及び一般図書とホームページ				

どんな科目？

1班6～7名で6班編成とし、各グループがテーマを選定し、研究・製作・実験等をし、関連する知識・スキルを習得するとともに、工業に関する幅広い視野を育成し、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる科目です。

学習の到達目標

この科目は、「工業技術基礎」と並んで、工業に関する各学科のすべての生徒が履修することと定められています。これまでに学習した加工に関する基礎・基本的技術を応用発展させ、一人一人が各テーマに沿って独創的な発想を加え、研究・製作・実験を進めます。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	テーマ設定 班分け 研究・製作・実験 中間発表会	＜計画段階＞ ・課題内容を考える。 ・課題の進め方、内容の各自で考える。 ・処理時間・必要経費を検討し、グループ内での役割分担を決定する。	○	○	○
	5					
	6					
	7					
2 学期	9	試行錯誤 調査検討 解決活動 計画の点検	＜実施段階＞ ・参考文献、資料の調べ方等を学習する。 ・課題の進め方、活動、進行の修正方法を身に付ける。 ・問題解決能力を習得する。	○	○	○
	10					
	11					
	12					
3 学期	1	発表方法と資料作成 発表会 レポート提出	＜課題研究発表会＞ ・プレゼンテーションの能力を習得する。 ・発表資料の作成し、1. 2年生の前で研究発表会を実施する。	○	○	○
	2					
	3					

評価の方法

評価は次のものを対象とします。

授業態度・関心・意欲・技能・作品のできばえ・レポート

1年間の評価は、上記内容を総合的に判断し、各班ごとで行います。また、学年末の評価は、全てのパートについて総合的に判断します。

科目

工業情報数理

教科	工業	学科・学年	電子機械工学科・1年	単位数	2
教科書	実教出版「工業718工業情報数理」				
副教材	情報技術検定問題集2・3級C言語				

どんな科目？

将来技術者として活躍するため、コンピュータやネットワーク、工業に関する事柄の数理処理についての基礎的な知識と技術を学習します。

学習の到達目標

情報技術に関する知識と技術を習得し、工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を身につけることを目標とします。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	産業社会と情報技術	コンピュータが身のまわりのさまざまなものに組み込まれていることを理解する。	○		○
	5	データの表し方	データの表し方について理解する。	○	○	○
	6	論理回路の基礎	論理回路の基本について理解する。	○	○	○
	7	処理装置の構成と動作	コンピュータの構成、処理装置の動作について理解する。	○		○
2 学期	9	プログラム言語	プログラム言語の種類について理解する。	○		○
		プログラムのつくり方	アルゴリズムやプログラムの作成を理解する。	○	○	○
		流れ図とアルゴリズム	順次・選択・繰返しの三つの基本的な流れ図と構造化プログラミングの意義について理解する。	○	○	○
	10	Cの特徴	簡単なプログラムによってCの特徴を理解する。	○	○	○
	11	四則計算のプログラム	選択処理	○	○	○
		繰返し処理	データ型やデータの入出力方法などを理解する。	○	○	○
3 学期		配列	if文とswitch文について理解する。	○	○	○
	12	関数	for文とwhile文について理解する。	○	○	○
		Cによる数理処理	配列の宣言や使用方法について理解する。	○	○	○
			関数のつくり方、標準関数について理解する。	○	○	○
			ファイルの種類や利用方法について理解する。	○	○	○
				○	○	○
3 学期	1	ソフトウェアの基礎	ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的および基本操作について理解する。	○		○
	2	アプリケーションソフトウェア	どのようなアプリケーションソフトウェアがあるか理解し、実際に使えるようになる。	○	○	○
	3					

評価の方法

授業への取り組み方

提出物（問題集、プリント）

中間・期末テスト

科目

工業技術基礎

教科	工業	学科・学年	金属工学科・1年	単位数	3
教科書	工業技術基礎 (実教出版)				
副教材	自作テキスト				

どんな科目？

工業に関する基礎的技術を実習によって学習し、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割について理解し、工業に関する広い視野を養い、意欲的な態度を身に付けるための科目です。

学習の到達目標

工業の各分野に共通に必要なである基礎的な知識、技術、態度を実験・実習を通して習得する意義を理解する。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1学期	4	・オリエンテーション ○4班に分かれて以下の各項目を各4週づつローテーションで実施する。	・旋盤の基本的な操作を習得し、図面の目標寸法に加工できる。			
	5					
2学期	6					
	7					
	9	2 鋳造	・アルミの鋳込み作業を通して、鋳型の構造を体験的に理解する。			
	10					
	11	3 情報処理	・ワープロと表計算ソフトの基本的な機能と操作方法がわかる。 ・目的に応じて、ソフトを使い分け、簡単な文書作成ができる。			
	12					
3学期	1	4 材料試験	・各種切断機原理を理解し、正しく使うことができる。 ・衝撃試験、引張り試験を行い、試験結果を算出することができる。			
	2					
	3					

評価の方法

製作物の完成度や実習レポートの内容を基本とする。また、実習に取り組む意欲や姿勢、班員との協調性などを考慮して評価します。

1学期、2学期は各項目ごとに評価し、学年末はすべての項目を総合的に評価します。

科目

課題研究

教科	工業	学科・学年	金属工学科 ・ 3 年	単位数	3
教科書					
副教材	自作テキスト等				

「課題研究」はどんな科目？

5～8名程度で班を構成し、班ごとにテーマを決め1年をかけて研究をします。研究内容には、製作や実験なども含み、工業に関する幅広い知識や技術を習得し、意欲的な態度を養う教科です。また、金属工学科ならではの鋳鉄溶解、プレゼンテーションや工場見学なども行います。

「課題研究」の学習の特徴・特色は？

これまでに学んだ基礎的な知識・技術をもとに、研究したいテーマをグループで話し合っ決定し、協力して研究を進めます。また、課題研究発表大会において、研究の成果をプレゼンテーションを利用して全員で発表します。

学習の計画

	月	学習内容（単元名）	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	オリエンテーション	・ 課題研究の内容について考える。	○	○	○
	5	鋳鉄溶解実習	・ 鉄を溶かす高温を肌で感じ、役割分担された作業を協力して行う。			
	6	パワーポイント実習	・ 基礎的なプレゼンテーション能力を身につける。			
	7	工場見学 資格取得	・ 身近に迫った進路選択を、しっかりと考える。			
2 学期	9	班分け、テーマ設定	・ 課題研究のテーマやグループ内での役割分担を話し合い決定する。	○	○	○
	10	テーマについての研究	・ 参考文献や資料の調べ方を、学習する。 ・ 問題の解決能力を身に付ける。	○	○	○
	11					
	12					
3 学期	1	テーマについての研究	・ 発表方法を話し合い決定する。 ・ 下級生に対する課題研究発表大会でプレゼンテーションの重要性を理解しその能力を高める。	○	○	○
	2	発表資料の作成				
	3	課題研究発表、レポート提出				

評価の方法

評価は、各自のテーマに対する活動状況（関心、意欲、態度、技能、発表、レポート）を総合的に判断して、評価します。

科目

工業情報数理

教科	工業	学科・学年	金属工学科・1年	単位数	2
教科書	実教出版「工業719精選工業情報数理」				
副教材	情報技術検定問題集2・3級BASIC 新訂版（実教出版）				

どんな科目？

将来技術者として活躍するため、コンピュータやネットワーク、工業に関する事柄の数理処理についての基礎的な知識と技術を学習します。

学習の到達目標

情報技術に関する知識と技術を習得し、工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を身につけることを目標とします。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1学期	4	- 産業社会と情報技術 - データの表し方 - 論理回路の基礎 - 処理装置の構成と動作	- 情報化社会の特徴を理解する。 - コンピュータが2進数で動作していることを理解し、2進数や10進数、16進数の変換ができる。 - 論理回路の基礎を学び、真理値表や図記号や論理式で論理回路を表すことができる。 - 処理装置と周辺装置を理解する。	○		○
	5			○	○	○
	6					
	7			○		○
2学期	9	- プログラム言語 - プログラムの作り方 - 流れ図とアルゴリズム - プログラム言語 - プログラムの作り方 - 流れ図 - プログラミングの基礎・応用	- プログラム言語の種類について理解する。 - アルゴリズムやプログラムの作成を理解する。 - 基本的な流れ図と構造化の意義について理解する。 - 簡単なプログラムによって言語の特徴を理解する。 - if文とswitch文について理解する。 - for文とwhile文について理解する。 - ファイルの種類や利用方法について理解する。	○	○	○
	10			○		○
	11			○	○	○
	12			○	○	○
	12			○	○	○
3学期	1	- ソフトウェアの基礎 - アプリケーションソフトウェア	- ソフトウェアの分類とオペレーティングシステムの目的および基本操作について理解する。 - どのようなアプリケーションソフトウェアがあるか理解し、実際に使えるようになる。	○		○
	2			○	○	○
	3					

評価の方法

授業への取り組み方

提出物（問題集、プリント）

中間・期末テスト

科目

工業技術基礎

教科	工業	学科・学年	電気工学科・1年	単位数	3
教科書	工業技術基礎（実教出版）				
副教材	自作テキスト				

どんな科目？

工業の各分野に共通して必要である基礎的な態度、技能、知識などを実験・実習を通して、体験的に学習する科目です。

学習の到達目標

実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な力を身に付けることを目指します。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	オリエンテーション				
	5	次項目を4班編制1週実施 1. ものづくり基本作業①	・スマホフォルダーを製作を通して、ケガキ針、ボール盤、各種工具の取扱いができる。			
	6	2. 配線トレーナー	・配線トレーナーを使い、配線の基礎を理解する。			
	7	3. 高電圧試験① 4. オームの法則・テストターの使い方	・高電圧の理解や、実験施設の取り扱いがわかる。 ・テストの取扱方法を習得し、計測の基礎・基本を理解する。			
2 学期	9	次項目を4班編制2週実施 5. ものづくり基本作業②	・電気工事の単位作業をととして、電線の加工、接続や各種器具の取り付けができる			
	10	6. 電気工事① 7. ホイーストンプリッジ・オシロスコープ	・ブリッジの原理と、抵抗値の測定方法を理解する。	○	○	○
	11	8. 基本論理回路 9. 接地抵抗・絶縁抵抗の測定	・論理回路についての理解を深め、論理ICやブレッドボードの取扱いを習得する。			
	12	10. シーケンス制御① 次項目を4班編制1週実施	・接地抵抗計・絶縁抵抗計の使用方法を習得する。			
		11. 電気工事②	・シーケンス回路を理解し、接点や、リレーの仕組みを理解する			
3 学期	1	12. シーケンス制御②				
	2	13. 応用論理回路	・フリップフロップやパルス信号の理解を深める。			
	3	14. コンデンサの充放電特性	・過渡現象を理解し、コンデンサの特性を、学ぶ。			

評価の方法

製作物の完成度や実習レポートの内容・提出期限、実習に取り組む意欲や姿勢、班員との協調性などを考慮して評価します。

項目ごとに評価し、学年末にすべての項目を総合的に判断します。

科目

課 題 研 究

教 科	工業	学科・学年	電気工学科・3年	単位数	3
教科書					
副教材	自作テキスト				

どんな科目？

自ら設定したテーマに基づき、課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる科目です。

学習の到達目標

- ・ 今までの学習内容を十分に発揮し、6名程度を1グループとしてテーマを選定し、作品を製作します。
- ・ グループごとに、研究・製作課程や関連する知識などを、課題研究の成果を課題研究発表会で発表します。また研究報告書（レポート）を提出します。

学習の計画及び評価方法等

学 期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学 期	4	ワード・エクセル・パワーポイントの使い方 グループ分け テーマの立案・計画 テーマの募集 テーマの決定 テーマ別の取り組み	・課題研究発表会等に向けての基礎知識として、ワープロ、表計算およびプレゼンテーションを習得する。 ・計画的に実施する計画力と実践力を身に付ける。	○	○	○
	5			○	○	○
	6			○	○	○
	7			○	○	○
2 学 期	9	グループごとに作品製作 調査・研究	・自主的・継続的な学習を通じて科学的・技術的な思考力及び探求的・創造的な能力と態度を身に付ける	○	○	○
	10			○	○	○
	11			○	○	○
	12			○	○	○
3 学 期	1	結果の整理 課題研究発表会（電気科2年生へ） 報告書（レポート）の作成	・わかりやすく説明できる能力や態度を身に付ける。	○	○	○
	2			○	○	○
	3			○	○	○

評価の方法

評価は次のものを対象とします。

- ・ 授業への参加意識、課題・報告書（レポート）の提出、課題研究発表会の内容、作品の成果

科目

工業情報数理

教科	工業	学科・学年	電気工学科・1年	単位数	2
教科書	工業情報数理 (実教出版)				
副教材	計算技術検定 問題集 3・4級 (全工協)				

どんな科目？

コンピュータやネットワークなど工業に関わる情報技術、数理処理の基礎を学習する。また、コンピュータを用いて情報の収集や活用する能力と態度を身に付けて、社会における情報技術の意義と役割を理解するとともに正しい活用方法を学ぶ。

学習の到達目標

- ・情報化の進展に対応できる知識と技術を身に付ける。
- ・情報技術や数理処理を活用しながら、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む力を養う。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	1 産業社会と情報技術 ・情報モラルとセキュリティ	・情報化社会におけるモラルや管理の大切さについて理解できる。 ・コンピュータ内部のデータの表現や処理の仕方が理解できる。 ・論理回路での回路設計ができる。	○	○	○
	5	2 コンピュータの基礎				
	6	・数の表現と演算				
	7	・論理回路 ・コンピュータの動作原理				
2 学期	9	3 コンピュータシステム ・コンピュータシステム ・コンピュータハードウェア	・コンピュータの五大機能が理解でき、仕組みや動作が理解できる。 ・プログラミングのためのアルゴリズムやフローチャートが理解できる。 ・C言語プログラムを用いて基本的なプログラムが作成できる。	○	○	○
	10	・オペレーティングシステムの基礎				
	11	4 プログラミングの基礎 ・プログラム言語の種類				
	12	・流れ図 ・C言語プログラムの書き方				
3 学期	1	5 コンピュータ制御の基礎 ・コンピュータと制御	・コンピュータ制御の仕組みやマイコン応用システムの仕組みが理解できる。 ・適切な情報の収集、整理・分析し、それを表現する方法を理解できる。 ・検定を通して情報技術に対する理解を深めることができる。	○	○	○
	2	・マイクロコンピュータの活用				
	3	6 情報技術の活用 ・情報の収集と活用 情報技術検定への挑戦				

評価の方法

ノートや問題集への取り組み方、提出状況、コンピュータの取扱と取り組み、各種検定への取り組み、授業中における発表や取り組み等で評価します。

科目

工業技術基礎

教科	工業	学科・学年	建築工学科 ・ 1 年	単位数	3
教科書	工業技術基礎 (実教出版)				
副教材	新版 建築実習 1・2 (実教出版)、その他担当教員が配布するプリント				

どんな科目？

工業の各分野を建築の科目と総合的、体系的に関連付けながら、各理論、技術を実験実習によって確かめるとともに技法や技能についても模擬的、体験的に理解する。

学習の到達目標

透視図の着彩・色彩学部門では建築に特化した図案や点景の模写など、木材加工部門では技能検定課題の製作、材料部門では木材の強度実験など、模型制作部門では住宅の軸組模型制作を行うことで、建築専門分野に必要な基礎的な知識、技術、態度などを身につけます。

学習の計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	◇透視図の着彩・色彩学部門	・色彩の原理を理解し、点景物の着彩に応用することができる。 ・工具の基本使用方法よく理解し、安全に使用できる。 ・木材の性質について理解する。 ・図面から技能検定試験課題を完成させる。	○		○
	5	・色彩構成の練習				
	6	・点景物の着彩実習				
2 学期	7	◇木材加工部門	・工具の使用方法及び安全使用 ・木材の性質 ・技能検定試験課題の製作	○		
	9	・工具の使用				
	10	・木材の性質				
3 学期	11	◇建築材料部門	・機械使用上の安全が理解でき、道具の使い方が分かる。 ・木材の強度を理解し、試験結果の意味が分かる。		○	
	12	・安全教育				
	1	・セメントの性質				
3 学期	2	◇模型制作部門	・与えられた建築図面を読み取り、模型を完成させる。	○		
	3	・道具の使用				
	4	・材料の性質				

評価の方法

各実習における下記の内容を総合的に判断します。

- ・実習への参加の仕方や態度。
- ・質問等に対する発表の内容、作品内容・完成度、レポートの内容。

科目

課題研究

教科	工業	学科・学年	建築工学科 ・ 3 年	単位数	3
教科書					
副教材	担当教員が配布するプリント				

「課題研究」はどんな科目？

建築に関する総合的なテーマを主体的に選び適宜内容を深めながら調査・研究・制作し、プレゼンテーション能力を養う。

「課題研究」の学習の特徴・特色は？

各自で設定している研究テーマに個人・グループにて取り組みます。テーマ毎に担当の教師が付き指導に当たります。

学習の計画

	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点			
				知	思	主	
1 学期	4	◇個人・グループで研究・制作					
	5	(1) 共同研究者編成、テーマ調査	・できる限りの情報を集め、自分に最も合うテーマを選定する。能力を養う。	○	○		
	6	(2) テーマ決定、調査・研究開始					
	7	(3) 中間発表会					○
2 学期	9	(4) 検討・改善・製作	・役割を分担し合って調査・研究、製作作業を進め、研究を深める。		○		
	10						○
	11						
	12						
3 学期	1	(5) 最終報告発表・審査会	・発表のためのプレゼンテーション方法を深める。	○	○		
	2	●2月下旬にOBを招待し発表会を開催する					○
	3						

評価の方法

- ①知識・技能：テーマ決定への参加の仕方や取り組み態度、補習授業態度
 ②思考・判断・表現：創造的な作業、作品内容
 ③主体的に学習に取り組む態度：作品の内容・完成度・レポート、発表会成果

科目

工業情報数理

教科	工業	学科・学年	建築工学科 ・ 1 年	単位数	2
教科書	工業情報数理（実教出版）				
副教材	配布プリント・問題集等				

どんな科目？

社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得し、情報及び情報手段を活用する能力を身に付ける科目です。

学習の到達目標

講義でコンピュータに関する基礎的な知識を学習し、実際にコンピュータの操作を通してコンピュータの操作方法や各種ソフトウェアの基礎的な技術を習得することを目標とします。

学習の計画及び評価方法等

	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	・コンピュータの構成と特徴	・コンピュータの構成と特徴を知る。			○
	5	・情報化の進展と産業社会	・コンピュータの持つ影の側面とその対応を理解し、情報社会におけるモラルと情報の管理について理解する。		○	
	6	・情報のセキュリティ管理	・コンピュータ内部の基本回路、周辺装置について理解する。	○		
	7	・処理装置の構成と動作	・コンピュータの基本操作を理解する。		○	
2 学期		・ソフトウェアの基礎とアプリケーションソフトウェア	・オペレーションソフトとアプリケーションソフトの役割を理解する。	○		
	9	・データの表し方	・コンピュータが2進数で動いていることを理解し、人間が使用している10進数、その仲立ちの16進数との相互変換ができる。	○		
	10	・コンピュータネットワークとマルチメディア	・コンピュータネットワークやマルチメディアの身近な活用例を参考にその仕組みについて理解する。		○	
	11	・日本語ワードプロセッサソフトウェア	・さまざまなソフトウェアの目的・特徴を理解し、基本的な操作方法を身につける。			○
	12	・表計算ソフトウェア ・文書の電子化				
3 学期	1	・プレゼンテーション	・引き続き、さまざまなソフトウェアの目的・特徴を理解し、基本的な操作方法を身につける。			○
	2	・プレゼンテーション支援ソフトウェア				
	3	・CADソフトウェア				

評価の方法

評価は次のものを対象とします。

定期考査・課題テスト・学習状況（出席状況、授業態度、参加意識等）・提出物（ノート、プリント等）です。

1年間の評価は、上記内容を総合的に判断します。

科目

工業技術基礎

教科	工業	学科・学年	土木工学科 ・ 1年	単位数	3
教科書	工業技術基礎 (実教出版 工業701)				
副教材	配布プリント				

どんな科目？

土木における実験や実習を通して、実務に必要な基礎的な知識・技術を理解し、実際にものづくりを行い、体験的に学習する科目です。

学習の到達目標

測量の三要素である距離、方向、高さを観測し、それらのデータを計算処理する方法と計算処理されたデータから目的に沿った図書の作成方法を習得する。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1学期	4	トラバース測量	- 測量機械の扱い方を知り、データの取得が出来る。 - 計算処理しやすい野帳の記入の仕方を学ぶ。	○		○
	5	・測量器械の据え付け				
	6	・距離の測定				
	7	・水平角の測定		○		○
	7	・方位角の測定 ・観測データの記帳方法				
2学期	9	トラバース測量	- 目的に沿った計算方法を学ぶ。 - 目的に沿った計算処理が出来る。 - 図書作成に必要なデータのまとめ方を学ぶ。	○	○	
	10	・角度の調整				○
	11	・方位角の計算		○	○	○
	12	・方位の計算				
	12	・緯距・経距の計算 ・トラバースの調整				
3学期	1	トラバース測量	まとめられたデータから閉合トラバースの測量成果を図面にする方法を習得する。	○	○	○
	2	・トラバース製図				
	3					

評価の方法

次のものを観点別に評価します。

- ① 実技テスト ② 提出物（レポート、図面、プリント等）
③ 学習状況（出席の状況、授業への取り組み・意欲・態度等の状況）

科目

課題研究

教科	工業	学科・学年	土木工学科 ・ 3年	単位数	3
教科書	なし				
副教材	構造実験指導書（土木学会）、材料実験指導書（土木学会）、 土質実験指導書（土木学会）、配布プリント				

どんな科目？

これまで学んだ座学・各実験実習・製図等の基本的知識及び技術を活用し、実際に創造的かつ自主的に課題に取り組む態度を育てる。2級土木施工管理技士に取り組みます。

学習の到達目標

構造実験・材料実験・土質実験・コンピュータ実習・土木施工・製図などのいろいろな土木の専門知識や技術を、実際に活用できる能力と態度を身につけます。また、2級土木施工管理技術者試験の学習を通じて、施工管理に必要な専門知識を養います。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1学期	4	- 課題テーマ、日程説明 - 課題テーマ決定、グループ編成 - 課題別テーマの取り組み	- 各自の課題の進捗状況などを順序良くノート等にまとめながら、問題点を解決しながら課題を進めることができる。 2級土木施工管理技士取得を目指す。	○	○	○
	5					
	6					
	7					
2学期	9			○	○	○
	10					
	11					
	12					
3学期	1	- 研究のまとめ - プレゼンテーション作成 - 発表会準備 - 課題研究発表会	グループでの役割を果たし、工夫しながら研究や発表ができる。	○	○	○
	2					
	3					

評価の方法

次のものを総合的に評価します。

- ① 提出物（レポート、図面、プリント等）
- ② 学習状況（出席の状況、授業への取り組み・意欲・態度等の状況）

科目

工業情報数理

教科	工業	学科・学年	土木工学科 ・ 1年	単位数	2
教科書	工業情報数理 (実教出版719)				
副教材	情報技術検定問題集3級 BASIC新訂版(実教出版) 配布プリント				

どんな科目？

社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解し、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得し、数理処理および情報手段を活用する能力を身につける科目です。

学習の到達目標

コンピュータに関する基礎的な知識を学習し、コンピュータの操作方法やプログラム作成の基礎的な技術を習得します。

また、情報技術検定、計算技術検定問題を演習で活用します。

学習の計画及び評価方法等

学期	月	学習内容	学習のねらい・目標	評価の観点		
				知	思	主
1 学期	4	数理処理 ・単位と数理処理 ・実験と数理処理 ハードウェア ・処理装置と周辺装置 ・データの表し方 ・論理回路の基礎	・工業に関する事象の数理処理について理解する。 ・関数電卓を使いこなすことができる。 ・コンピュータが2進数で動いていることを理解し、10進数と2進数、16進数との相互変換ができる。 ・コンピュータ内部、周辺装置について理解する。 ・コンピュータで演算や制御を行う論理回路を理解する。	○	○	
	5			○		○
	6					
	7			○	○	
2 学期	9	プログラミング ・プログラミング言語 ・プログラムの作り方 ・アルゴリズムと流れ図 ・プログラミングの基礎 ・順次処理 ・選択処理 ・繰返し処理 ・プログラミングの応用	・流れ図の読取りと作成ができる。 ・基礎的なプログラミング言語を理解し、基本的なプログラムの作成ができる。	○	○	○
	10					
	11			○	○	○
	12					
3 学期	1	産業社会と情報技術 コンピュータの基本操作とソフトウェア コンピュータネットワーク	・情報化社会におけるモラルと情報の管理について理解する。 ・オペレーションソフトとアプリケーションソフトの役割を理解する。 ・ネットワークの接続形態および構成機器について理解する。	○	○	○
	2			○		○
	3			○		○

評価の方法

次のものを総合的に評価します。

- ① 定期考査・小テスト
- ② 提出物（ノート、プリント等）
- ③ 学習状況（出席の状況、授業への取り組み・意欲・態度等の状況）